E 2

衣類の収納に関する研究（その１）
衣類の収納のしかたの分析

大阪樟蔭女大　○本田　節　大阪樟蔭女大　一棟宏子
大阪市大生活科学　中根芳一　三重大教育　中島喜代子

目的；　本研究は，収納スペースの中でもとくに大きなスペースを占めて，居住者の不満が高い衣類の収納をとりあげ，その収納のしかたを分析することにより，望ましい衣類の収納スペースのありかたについて考察することを目的としている．

方法；　大阪府茨木市内にある女子短期大学家政系の学生 296人を対象に，1987年５月～７月の間に自宅平面図作成課題とともに自宅におけるモノの収納状況について合計８回にわたる調査を実施した．分析対象には記入不備を除外したうえで〈自宅通学生で住戸規模が40㎡～ 200㎡の専用住宅に居住している学生〉という条件で 215件を選出した．この報告はその調査結果の一部である．

調査結果および考察；　①対象世帯の家族構成は４～５人の核家族が中心である．世帯主の職業は，自営業が２割程含まれているが，大半は管理職，事務・教育職，技能・労務職などのサラリーマンである．主婦の就業率は４割であったが，このうちパートタイムが 18%を占めていた．住戸規模は世帯当たり平均96.0㎡であった．②寝室は夫婦の９割が共用寝室，子供は７割が個室であった③家族全体でみると，各家族が自分の衣類を別々に収納している世帯はわずかであり，大半の世帯では季節外衣類や古着など何らかの衣類を共同で収納している．④個人別に衣類の収納場所をみると，自室にのみ収納しているケースは少なく２割前後にすぎない．大半は自室と他の部屋に分散して収納しているが，とくに主婦の衣類については所有量が多いためか，収納場所が最も分散している．⑤逆に自室に他の家族の衣類が収納されている場合も多く，５～６割程度にのぼっている　⑥寝室以外の衣類の収納場所として，予備室，納戸など収納専用スペースが多く利用されているが，世帯の住宅条件によっては居間や客間にも収納されており，収納のしかたは多様である．